

U20 日本陸上競技選手権大会 in 静岡・草薙

9月から10月にかけて、東京が記録的な長雨の続いていた中、静岡・草薙運動公園に来て、忘れかけていた青い空が顔を出し、気温も風も是非とも記録を出してくださいと言ってくれているような絶好のコンディション。110mJHに出場する高橋健太（2年）も雨天の中でも工夫しながら練習をして調子を上げてきているので、それなりの結果が出る予感を感じられる。ただ、いつもと違うことは、高校生のみならず、大学2年生の早生まれまでの全国から集まったトップ選手の中でのレースをする事と、技術的には、1台目までのアプローチを今までは8歩で踏切っていたのを7歩に変更して今回はトライする。スプリント力を強化したことで100mのタイムが11.08から10.76まで伸びたことで1台目までの距離が詰まり上に浮いてしまうので、7歩での練習を積みできた。当然、スタート時の足が逆になり、アプローチの歩幅もリズムも変わってくる。今まで積み上げたハードリングでインターハイ6位入賞までしたものを捨てる事にもなる。失敗するかもしれない大きな賭けをする理由がある。それは、ライバルの存在。彼が成長し記録を更新してもいつもそれを上回る成長で記録とランキングを上げてくる。直前に開催された都新人大会でも、高橋が決勝で大会新記録の快走をしても、彼はそれを上回る記録で優勝をさらっていく。

今月、青森で開催される国民スポーツ大会の代表も彼が選出され、高橋はその補欠要因となる。そんな状況を変えるためには、更なる高みを目指して行くことしかないのであり、いつかはライバルを上回ることに。今回はU20をそのための第一歩に位置づけて、臨むことにした。

予選レース

11時20分をまわり、いよいよレースが始まった。号砲一発、いつもよりはスタートが遅れたように見えたが、7歩に変えたことと、競走相手のレベルが高いこともあり、それを差し引けば決して悪くはない出だしで、1台目を7歩でクリアしていく。中盤に差し掛かる頃にはリズムがどんどん上がっていき最後の10台目を越した後、混戦状態の中最後の一刺しで2着でゴールイン。電光掲示板に2番目に掲示され13.55 +1.6の表示。今回のハードルは普段やっているハイハードルの企画ではなくジュニア規格なので少しだけハードルの高さが低くなっている。夏休み中に出した13.92を大きく上回る13.55の表示が出た。更に予選は全部で4レース行った結果、全体でも2番目のタイムで決勝進出となった。

決勝レース

決勝は午後2時過ぎから始まるので、再びサブトラックに戻って軽くアップをして、ハードリングをいくつか動作確認をした後招集場所へ。決勝は7レーン、選手紹介が一人ずつ行われ、落ち着いた様子で挨拶。スターターのOn your marksの掛け声で位置に着く。ゴール付近のスタンドから見ていると、ハードルが全部で80台並んでいるので選手が見えなくなる。号砲一発飛び出すが、1台目のタイミングが少し遅れたようだ。しかし、予選の時もそうだったが、スピードとハードリングのリズムがインターバルごとに上がっていき、後半に先頭争いに追いつく流れとなった。数人がほぼ同時にゴールに飛び込み、スンドから見ている限りでは彼が何着でゴールしたかが判らない。旧式の電光掲示板にも中々掲示されない。暫くしてようやく彼が13.57で4着と表示。3着13.53 5着13.58と、僅差での勝負。100分の2秒の差で惜しくも表彰台に乗ることはできなかったが、全国レベルの舞台でベストタイムを2本そろえることが出来たことが大きな収穫であり、取り組んできたことが正しい方向に向いていることも確認できた。それに彼はまだ高校2年生、来年に向けて大きな自信ともなったはず、更に3週間後には三重県の伊勢市で開催されるU18陸上競技大会にエントリーしている。更なる成長を見たいものである。